

1月1日に更改を迎える欧米の再保険契約の方針や条件の情報を交換し、協議する場として例年9月以降に世界各地で再保険業界のカンファレンスが開催されます。

9月にモナコで開催されるランデヴー、10月にドイツ、バーデンバーデンで開催される会議へと続きます。

モナコは1957年から、バーデンバーデンは1979年からと歴史も古く、主に欧州から2000名以上が参加するイベントとなっています。

モナコでトップマネジメントにより大きな方向性が示され、バーデンバーデンで示された枠組みに基づきさらに内容が詰められます。2つのカンファレンスが次年度の再保険市場の動向を探る重要な場であると位置づけられています。

アジアにおいても1962年から各国の保険業界と他国の状況、情報を知る機会としてEAIC (East Asia Insurance Congress)が2年ごとに開かれています。

SIRC (Singapore Insurance Reinsurance Conference) は1991年からシンガポールで

EAICと重ならないように隔年開催されていましたが、参加者の増加やアジアへの関心を反映して2017年からは毎年開催されるようになりました。成長著しいアジア市場ですから、カンファレンスには欧米からも参加者が増え、50か国から3000名を越す参加者がシンガポールに集うようになりました。モナコ、バーデンバーデンに比較して日本からの参加者が多いのもSIRCの特徴です。

残念ながら感染症の影響で昨年、今年とこれらのカンファレンスは中止となり、通常のカンファレンスに合わせたオンラインによるプレゼンなどがいくつも行われました。

この時期にいくつもの会社、メディアから再保険市場の動向、予想が発表されます。日本では主な更改は4月ではありますが、この時期のメッセージを更改に向けての貴重な情報としてチェックしています。

11月ではありますが、今年度の保険事故を振り返りながら、再保険カンファレンスに合わせて出された再保険市場予想のいくつかをご紹介します。